

多文化共生についてのアンケート結果

本県には、3万2千651人の外国人が住んでいます。(令和3年12月末現在:住民基本台帳人口)これは、県民約43人に1人が外国人ということになります。

県では、滋賀県多文化共生推進プラン(第2次改定版)を策定し、

「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などの違いにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる多文化共生の地域社会」を目指し、多文化共生施策に取り組んでいます。

多文化共生の推進にあたり、県民の皆様の多文化共生についての意識や外国人県民等との関わりの現状について把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

【外国人県民等とは】

国籍、民族にかかわらず、母語や文化、宗教、生活習慣など、日本以外の背景をもつ県民

★調査時期:令和4年6月

★対象者:県政モニター299人

★回答数:259人(回収率86.6%)

★担当課:総合企画部国際課

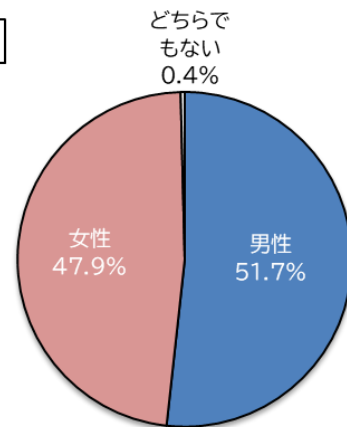
(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

【属性】

◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	134	51.7
女性	124	47.9
どちらでもない	1	0.4
合計	259	100.0

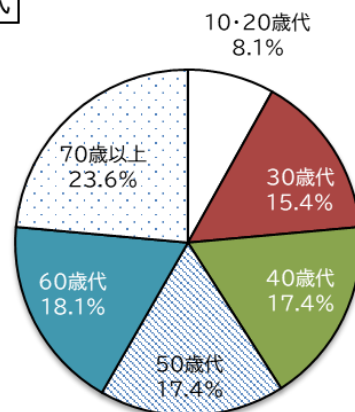
性別



◆年代

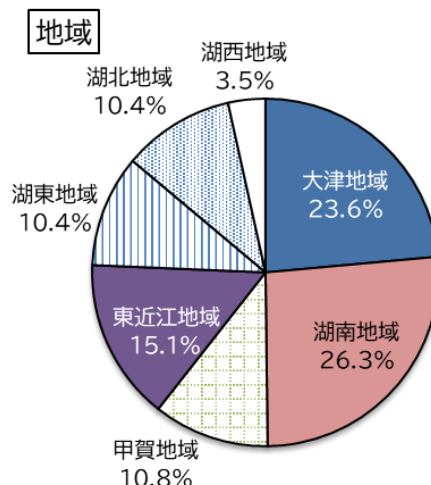
項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	21	8.1
30歳代	40	15.4
40歳代	45	17.4
50歳代	45	17.4
60歳代	47	18.1
70歳以上	61	23.6
合計	259	100.0

年代



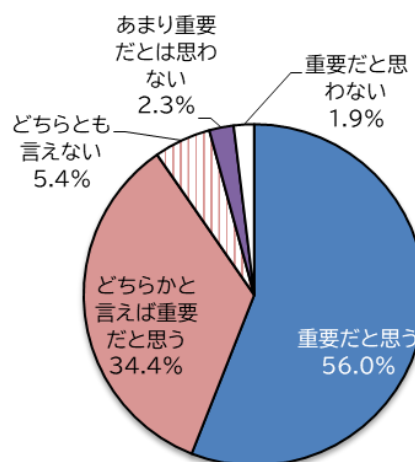
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	61	23.6
湖南地域	68	26.3
甲賀地域	28	10.8
東近江地域	39	15.1
湖東地域	27	10.4
湖北地域	27	10.4
湖西地域	9	3.5
合計	259	100.0



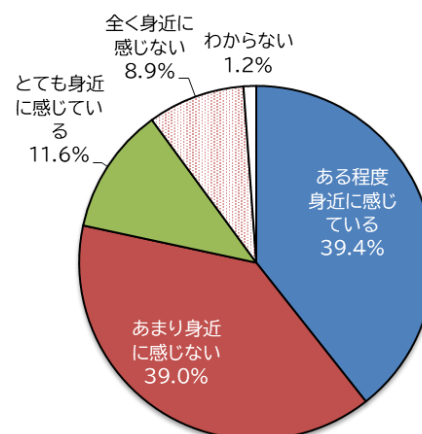
問1 あなたは、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく。」多文化共生社会の実現についてどう思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
重要だと思う	145	56.0
どちらかと言えば重要だと思う	89	34.4
どちらとも言えない	14	5.4
あまり重要だとは思わない	6	2.3
重要だと思わない	5	1.9
合計	259	100.0



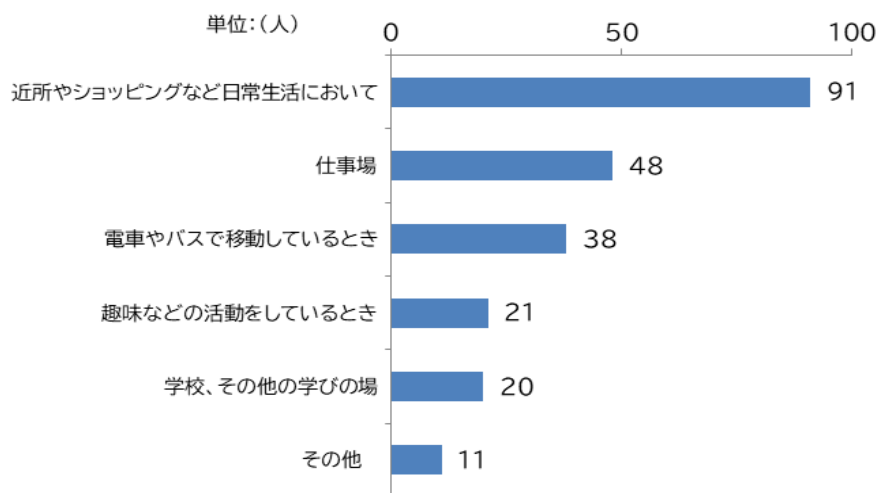
問2 あなたは、普段生活をしていて、外国人県民等の存在を身近に感じますか。次の中から1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
ある程度身近に感じている	102	39.4
あまり身近に感じない	101	39.0
とても身近に感じている	30	11.6
全く身近に感じない	23	8.9
わからない	3	1.2
合計	259	100.0



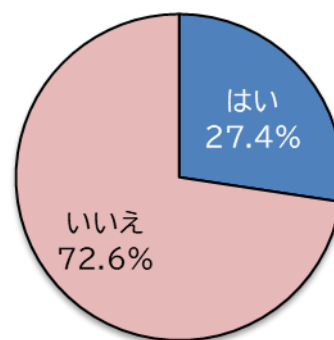
問3 【問2】で「とても身近に感じている」または「ある程度身近に感じている」を選択された方にお尋ねします。どのような場面で外国人県民等の存在を身近に感じますか。
 (回答チェックはいくつでも。n=132)

項目	人数(人)	割合(%)
近所やショッピングなど日常生活において	91	68.9
仕事場	48	36.4
電車やバスで移動しているとき	38	28.8
趣味などの活動をしているとき	21	15.9
学校、その他の学びの場	20	15.2
その他	11	8.3



問4 あなたは過去3ヶ月間に、外国人県民等と会話(単なる“こんにちは”以上)をしたことはありますか。(回答チェックは1つだけ。n=259)

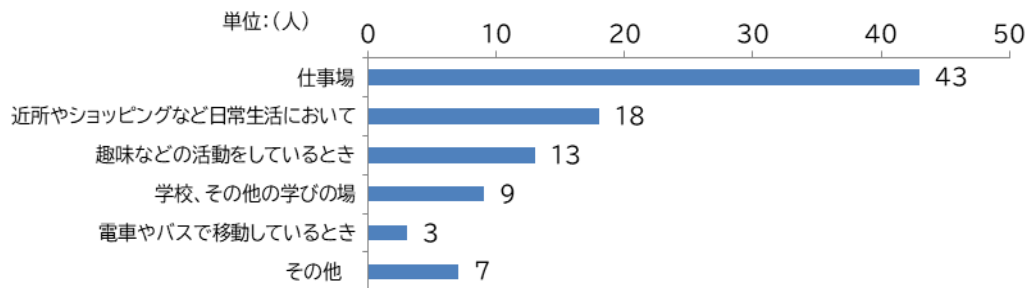
項目	人数(人)	割合(%)
はい	71	27.4
いいえ	188	72.6
合計	259	100.0



問5 【問4】で「はい」と選択された方にお尋ねします。

その会話は、どこでしたか。(回答チェックはいくつでも。n=71)

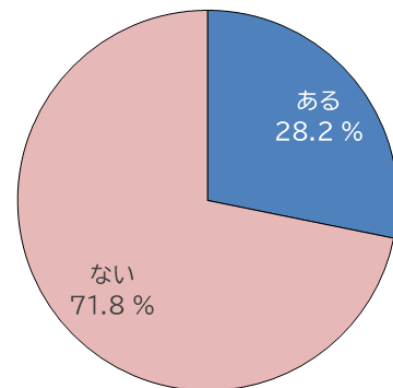
項目	人数(人)	割合(%)
仕事場	43	60.6
近所やショッピングなど日常生活をしているとき	18	25.4
趣味などの活動をしているとき	13	18.3
学校、その他の学びの場	9	12.7
電車やバスで移動しているとき	3	4.2
その他	7	9.9



問6 あなたは外国人県民等と付き合いがありますか。

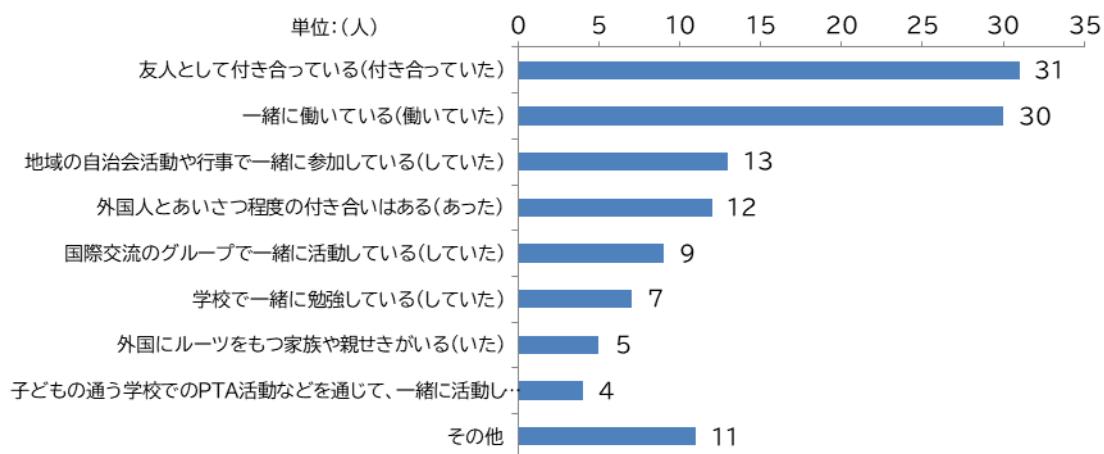
(過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
ある	73	28.2
ない	186	71.8
合計	259	100.0



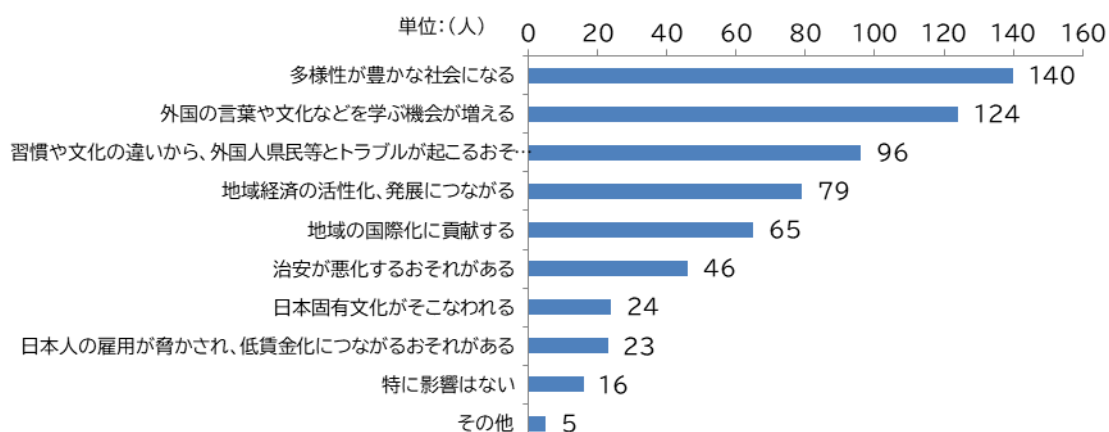
問7 あなたは外国人県民等とどのような付き合いがありますか。
 (過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。n=73)

項目	人数(人)	割合(%)
友人として付き合いしている(付き合い ていた)	31	42.5
一緒に働いている(働いていた)	30	41.1
地域の自治会活動や行事で一緒に参 加している(していた)	13	17.8
外国人とあいさつ程度の付き合いは ある(あった)	12	16.4
国際交流のグループで一緒に活動して いる(していた)	9	12.3
学校で一緒に勉強している(していた)	7	9.6
外国にルーツをもつ家族や親せきがい る(いた)	5	6.8
子どもの通う学校でのPTA活動など を通じて、一緒に活動している(してい た)	4	5.5
その他	11	15.1



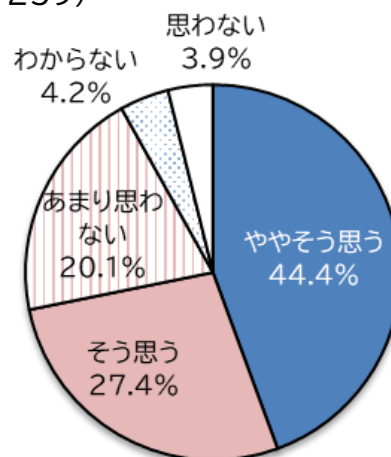
問8 あなたは、地域社会に外国人県民等が増えることについてどう思いますか。
(回答チェックは3つまで。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
多様性が豊かな社会になる	140	54.1
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	124	47.9
習慣や文化の違いから、外国人県民とトラブルが起こるおそれがある	96	37.1
地域経済の活性化、発展につながる	79	30.5
地域の国際化に貢献する	65	25.1
治安が悪化するおそれがある	46	17.8
日本固有文化がそこなわれる	24	9.3
日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながるおそれがある	23	8.9
特に影響はない	16	6.2
その他	5	1.9



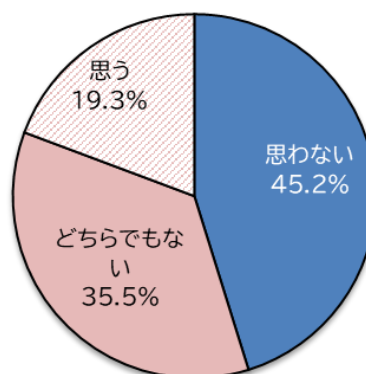
問9 あなたは、外国人県民等と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
ややそう思う	115	44.4
そう思う	71	27.4
あまり思わない	52	20.1
わからない	11	4.2
思わない	10	3.9
合計	259	100.0



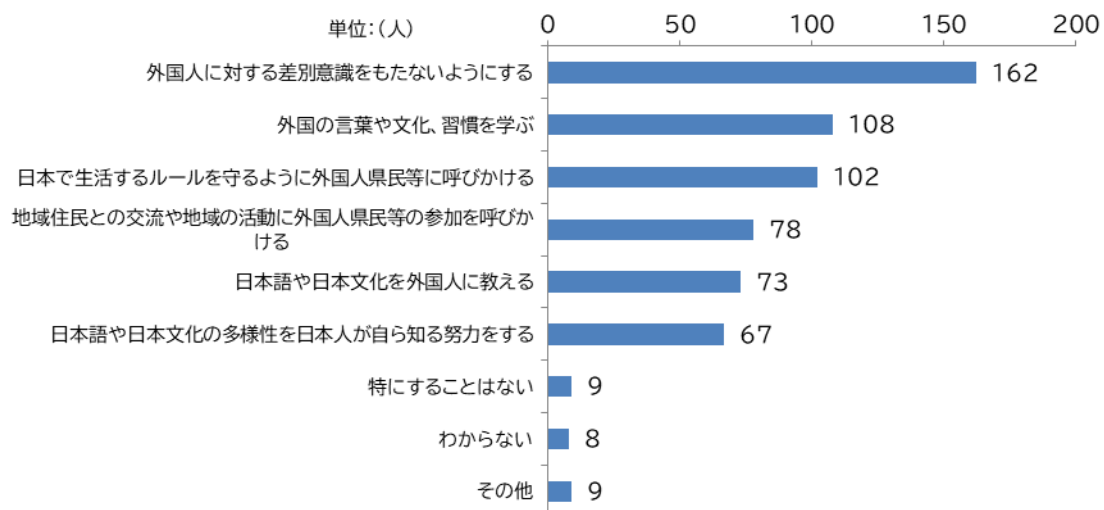
問10 あなたは外国人県民等が地域の一員として、地域の社会活動等(例:自治会などの地縁組織の活動、祭り等の地域行事、ボランティア活動など)に参画していると思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
思わない	117	45.2
どちらでもない	92	35.5
思う	50	19.3
合計	259	100.0



問11 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくために、日本人県民は何をすべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。 n=259)

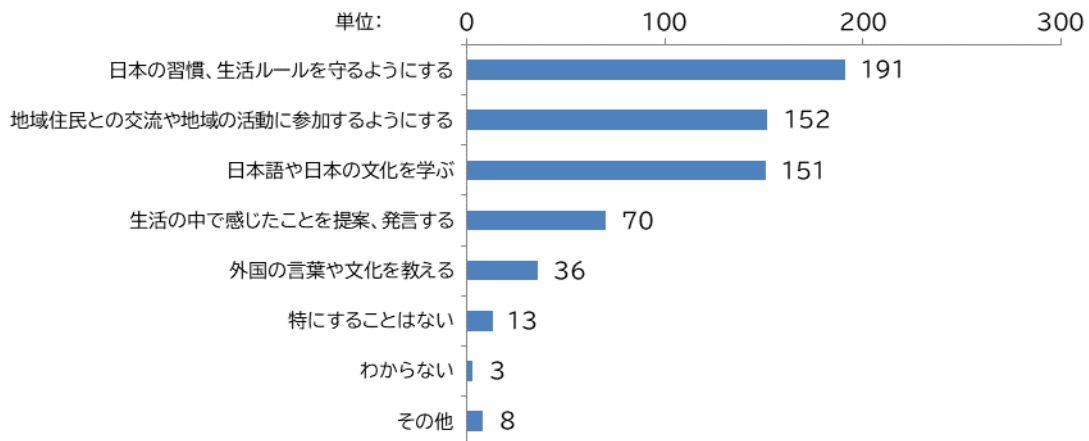
項目	人数(人)	割合(%)
外国人に対する差別意識をもたないようにする	162	62.5
外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	108	41.7
日本で生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける	102	39.4
地域住民との交流や地域の活動に外国人住民の参加を呼びかける	78	30.1
日本語や日本文化を外国人に教える	73	28.2
日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする	67	25.9
特にすることはない	9	3.5
わからない	8	3.1
その他	9	3.5



問12 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくために、外国人県民等は何をすべきと思いますか。

(回答チェックは3つまで。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
日本の習慣、生活ルールを守るようにする	191	73.7
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	152	58.7
日本語や日本の文化を学ぶ	151	58.3
生活の中で感じたことを提案、発言する	70	27.0
外国の言葉や文化を教える	36	13.9
特にすることはない	13	5.0
わからない	3	1.2
その他	8	3.1

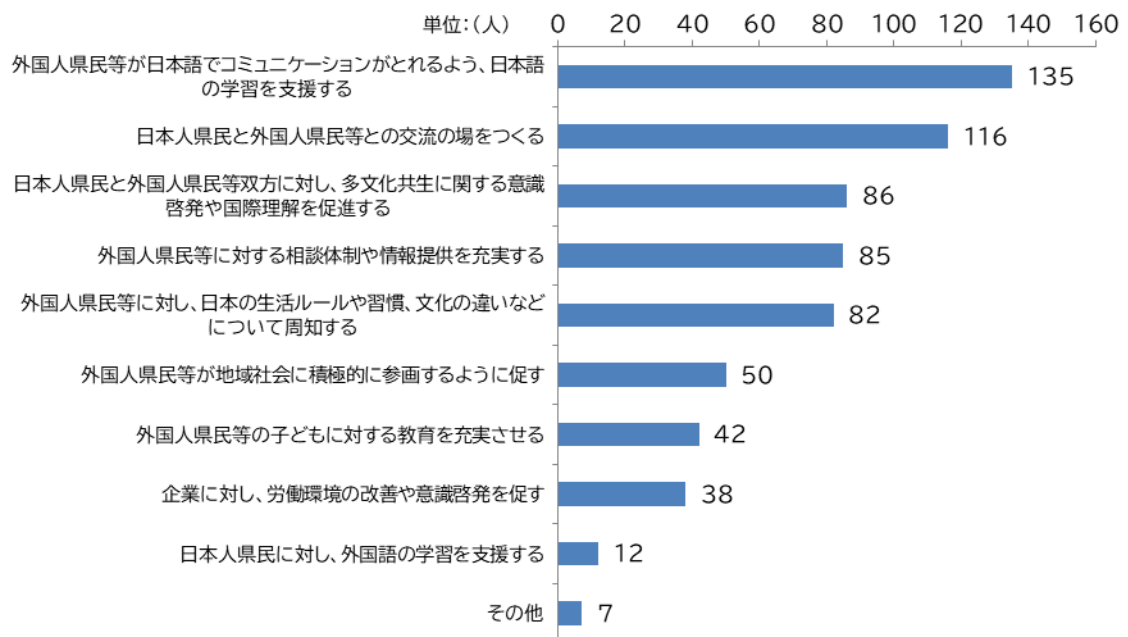


問13 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らせ活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取り組みに力を入れるべきと思いますか。

(回答チェックは3つまで。n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
外国人県民等が日本語でコミュニケーションがとれるよう、日本語の学習を支援する	135	52.1
日本人県民と外国人県民との交流の場をつくる	116	44.8
日本人県民と外国人県民等双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	86	33.2
外国人県民等に対する相談体制や情報提供を充実する	85	32.8
外国人県民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	82	31.7
外国人県民が地域社会に積極的に参画するように促す	50	19.3
外国人県民の子どもに対する教育を充実させる	42	16.2
企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	38	14.7
日本人県民に対し、外国語の学習を支援する	12	4.6

その他	7	2.7
-----	---	-----



問 14 外国人県民等と日本語でコミュニケーションが取れず困った経験があれば、教えてください。(抜粋)

- ・滞在年数が長い人でも全く日本語が通じなくて困ることが多い。もう少し外国人の方にも日本語を覚えてほしい。
- ・日本語ができない外国人との間でも、なるべくやさしい日本語で会話することが重要だと思う。多言語化するよりも、やさしい日本語を活用してコミュニケーションを取る方法をみんなに周知する必要があると思う。
- ・言葉は勿論のこと、生活習慣の違いをどうお互いに理解し合い、双方がどこで折り合いをつけるか、がとても難しい。
- ・外国人家族がおられるが、子どもは日本語が話せ、学校も日本人同様に通っているが、ご両親は日本語が不自由で、地域で配布した会議の委任状などが読めず、対応が難しかった。
- ・地域コミュニティの防災の活動に外国人県民の方が参加されておらず、実際に災害が発生した時の事を想像すると非常に危険であり、早期解消を図るべき課題だと捉えた。
- ・病院で受付をしている時にコミュニケーションがとれずに困った。
- ・働いている外国人が診察に来られる。通訳の方が一緒に来られる職場とそうでない職場と差がある。一人で来られると意志疎通しにくく、問診にも無理がある。安心して診察に来ていただけるよう、労働環境の改善や公的な援助などがあると外国の方も過ごしやすと思う。
- ・保育園の役員を決める会議に無断欠席されていた。たぶん意味が分からなかったのだと思う。役員になっても日本語が通じないし、一緒にペアになった人は大変。保育園に通っている以上は、優遇はできないし難しいと思った。
- ・自動車事故が発生したが、細かい話ができず、苦勞した。
- ・外国人のご夫婦がおり、奥さんの方は英語も日本語も分からず、旦那さんの通訳により会話が成り立っていた。同じ言語の友達もない様子であり、奥さんの気持ちが沈んでいると聞いた。子育てや自身の悩み等、旦那さんには話しにくいであろう話を聞いてあげることができたらと思った。
- ・交通違反を起こした外国人が取り締まりの際、日本語が全く分からず、警察応援要請等に相当な時間を要されていた。
- ・外国人が仕事場で働いていたが、コミュニケーションがとれず、外国人対日本人という図形が出来上がってしまった。
- ・日本語が分からないことにより、学校や地域の役員から必然的に外れている状況が双方にとってよくないと思っている。役員をやりたいがらないので余計に交わることができず、お願いしても日本語がわからないから自分たちも困ることになるだろうという悪循環が生まれている。

問 15 その他、日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・外国人県民の方々によく会う。アパート暮らしの方が多いため地域活動の参加へのきっかけが無いのが現状。自治会と家主さんの理解が必要だと思う。
- ・こどもの教育にしっかり注力してほしい。一時の労働力としてではなく、親子ともども日本で将来にわたり活躍してもらえよう、そして満足度の高い生活を送れるよう、自立を援助する仕組みづくりを行政にお願いしたい。
- ・自治会行事に参加して貰えれば、理解を深めやすいと思う。
- ・ゴミ出しや自治会、生活習慣など根気よく教えていくしかないと思う。外国人の多く住むアパートは周辺にゴミがよく散乱している。
- ・法規制をしっかりと整えたうえで日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会の議論だと思う。
- ・日本文化を押し付けるのではなく、外国人だから仕方がないと諦めるのではなく、日本で暮らすうえで必要なルールや有益な情報が分け隔てなく行き渡るようになれば、共に安心して暮らせるのではないかと思う。
- ・他国の方が、県民になることは反対しない。差別意識もない。国の政策では日本人は後回しで外国人に非常に手厚い。国民の血税なのだから、国民第一ではないか。滋賀では熟慮を望む。日本語支援日本文化の理解を望む。
- ・日本語支援を充実すれば日本のことやルールなどを自然と理解し学ぶことができると思う。
- ・対等な関係の中で互いに理解しあえる社会を目指すとの取り組みは良いと思うが、これが直接参政権と結びつき議論されると、違和感を感じる。人間として対等なのはわかるが、国家や地域の在り方に日本国籍を持たない人が参加することには、明確に反対したい。
- ・日本人は外国人に対して差別意識は薄いと思っているが、外国人の方が日本で生活するなら言葉や習慣について勉強することが大事だと思っている。外国人の方の気持ちが日本に溶け込む覚悟が必要だと思っている。政府と雇用する各事業者の意識の差が多すぎると思う。
- ・まずは交流が必要と思う。色々な場でそのような機会を提供いただきたい。
- ・外国人県民に日本語や日本の文化を教えて、日本に馴染んでもらえるようにサポートする事が大切だと思う。外国人が意見を言える場と学ぶ場が必要。
- ・多様性社会を進めるためにも、もっと交流を促進することから始めてみるのがいいのではないかと思う。

- ・お互いが分かり合える努力をすることが大事。ただ外国人県民等も日本の地域のルールを守ることは最低限必要。外国人県民等が日本語理解が不十分であれば、それを行政がそれぞれの母国語で伝え理解してもらうよう工夫すべきだと思う。そのうえで、相互に触れ合える機会をつくる必要がある。最後はお互い人間なので、それぞれを尊重することで理解し合えると思う。
- ・これからも外国人県民が増えることが予想されるので地域社会でのルール作りを明確にし、周知徹底が必要と思われる。
- ・宗教の違いは、お互いに尊重しあうことが重要である。しかし、同時に、日本の社会ルールも、お互いに守らないといけない。
- ・外国人におもてなしする政策が、日本人や日本の子どもたちのための政策より優先されるべきではない、というのは当たり前。
- ・日本人は、外国人というだけで色眼鏡で見ないようにする。外国人は、日本でのマナーや基本的な約束ごとを守るといった相互の努力が大切だと思う。
- ・日本人は先ずは外国人を受け入れる時に日本のルールや習慣を徹底して説明する必要があると思う。